

第2分科会【地歴・公民】

主体的・対話的で深い学びを通じ育成する資質・能力 ～大学での学びに繋がる力とは～

報告者▶ 菅谷 尚平（京都市立堀川高等学校教諭）
報告者▶ 木塚 功一（京都市立紫野高等学校教諭）
報告者▶ 平野 寿則（大谷大学文学部歴史学科教授）
コーディネーター▶ 滝本 順之（京都市教育委員会学校指導課指導主事）

生徒が社会的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びを行うことを通じ、生きて働く資質・能力の向上を図る授業改善についての実践報告を行う。さらに、教科を通じて身に付けさせたい、大学での学びの素地となる資質・能力について大学教授の方のご意見も伺う。これらを踏まえ、生涯にわたる学びを支える資質・能力の向上を図る授業改善や、それを測る大学入試（大学入学共通テスト等）について協議を行いたい。

概 略

冒頭、コーディネーターより本分科会の中心課題を、「新学習指導要領が目指す、地歴・公民科目の授業を通じて身に付けさせたい力の具体化とその育成」と、「大学が入学後に求めている学びの素地となる資質・能力」の接続を図ることと示し、高校教員2名の報告者より、新学習指導要領が示す資質・能力を測ることを目指した「大学入学共通テスト」の試行テスト問題（平成30年、29年実施）より「求められている力」を確認・分析し、報告者が大事にしている「つけさせたい力」と重ね合わせつつ、その力の育成を期待できる（期待している）授業や日々の取り組みについて実践報告を行うこと、大学教員の報告者より、「大学での学びを見据え高校で身に付けてほしい資質・能力と、それを測る地歴・公民の入試問題」についての分析報告を行うことを紹介した。

菅谷氏の報告は、「1. 新学習指導要領及び大学入学共通テストをもとに、今後必要とされている資質・能力の整理」「2. 高校段階で地歴公民科の授業を通して身につけさせたい資質・能力」「3. 上記の資質・能力を身につけるための実践例」の3つで構成され、1. では、公民科の目標を踏まえ「社会に参画する当事者意識の醸成」に焦点化し、2. では、新学習指導要領、試行テスト問題等を分析する中で、今後求められる資質・能力を「①概念・理論の習得・活用」「②諸資料を選択し活用する力」「③現代の諸課題の把握」「④多面的・多角的な考察」の獲得を通して主権者意識の醸成を図ることを主眼とし、3. では前述の①～④を、高校生成長段階を踏まえたものに整理し「社会における諸課題への意識醸成」を図ることを目指した、意欲的な授業実践であった。「規則功利主義」という概念・理論を具体的状況で活用し、身近な社会である「学校」での諸課題把握と改善に向けた取り組みを実体験させるといふ、ねらいを絞った授業実践は意図が非常に伝わりやすく、理解しやすい良い実践報告であった。

木塚氏の報告は、「①大学入学共通テストの特徴」「②地歴公民科の授業を通して「つけた力」

(来たるべき「歴史総合」も視野に入れて)」「③「つきたい力」を培う実践例」「④大学にすすむうえで必要な力とは」の4つで構成され、①では、多くの問題を丁寧に分析・評価し、②では、「大学入学共通テストで求められる力」と「歴史総合」「歴史探究」のねらいを組み合わせ、「歴史の授業でつきたい力」を整理し、③では、その「つきたい力」を培う実践例として、国公立大学二次試験の論述問題を題材に仮説検証に取り組みさせる、単元ごとにシンプルな「問い」を設定し、生徒の主体的な学習姿勢を引き出す、地図を多用し地理的条件への意識付けを促すなど、多種多様な授業手法やアイデアを紹介され、④では、教科科目を超えたすべての学びの基本的な型として「問題発見⇒仮説⇒分析・検証⇒考察」のサイクルの定着の重要性を踏まえ、そのスタートラインに立つ「主体的な姿勢」の重要性を合わせて提言された。多様な生徒との対話を通じて得られた経験をもとに、生徒を中心に据えた上で、専門的な教科指導を行う高校教員が果たすべき役割を数多くの実践例や手法とともに紹介された報告は大変興味深く、参加した教員にとって自身の教育活動を振り返る上で大変参考になる実践報告であった。

最後に登壇された大谷大学教授である平野氏の報告では、まず大谷大学の大学入試を題材にして、問題作成の基本的な考え方や方針、それに基づいて作成された入試問題を詳細に分析していただいた。その上で、大谷大学(文学部)が求める学生像、アドミッション・ポリシー、歴史学科が求める学生像や教育目標の関わりが、実際に出題する内容の理由・背景に密接に関わること(もしくはその関わりを強めることが他大学との差別化や、思考力を問う独自入試のヒントになるかもしれないという示唆)や、実際に取り組まれる講義、授業内容を踏まえると、最低限必要な基礎的な知識理解を求めなければならない現実的な背景、受験生の基本的な学力層といった外的な要因も踏まえないといけないという点など、大学現場における問作者として多様な観点を考慮の上問題作成に当たらなければならないという、現実的な意見を紹介していただいた。その上で、大学での学びに必要な力とは、木塚氏の指摘と重なる部分もあるが、やはり、学びの型を理解していることと、その出発点でもある「問い」を持ちうる目的意識や意欲ではないか、とまとめていただいた。大学に送り出す高校側からでは意識されない部分にまで踏み込んだ報告は、今後の高大接続を考える上で多様な示唆となる報告であった。

全体討論の内容

3人の報告を踏まえ、地歴・公民科では見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びを実現することを通じ「思考力・判断力・表現力」の育成を図ることがより一層重視される、新科目に対応できる授業改善が求められていくこと(スライド①)、一方、大学入試においては、大学入学後の学びを支える、基礎学力・基礎知識の確認の必要性が切実な問題として存在するとともに、高校での学習とも関わる、学習意欲の向上を図る必要性を確認した(スライド②)。これらを踏まえ、高校の学びと大学入試の関係について検討を深めたいと思い、「歴史」「地理」「公民」の3つの専門分野に分かれていただき、「高校で行われる授業改善」とそれが育む資質・能力を測る「大学入試問題」について、議論をしていただいた(スライド③)。

「地理」グループより、「大学入学共通テスト」では授業を進める形式での問い掛けが多いことから、「地理総合」を見据え、大問の構成がそのまま、授業実施のヒントになるようなものになれば良いという意見、「歴史」グループより、「時間軸」「地域との結び付き」「複数の歴史的事象よ

り新しい『問い』を設定」「絵を用いて説明する」など多様な工夫により、ただ知識を問うのではない歴史的思考力を測る出題づくりをという意見、生徒の歴史を学ぶ意義を考えさせるために「現代的諸課題」に関わる出題や、「比較・分類・あてはめ・構造化」など、どういった思考法を用いて解くのが明確な問いがあれば良いという意見をいただいた。また、「公民」グループより、大学入学共通テストでは難しいが、各校で地域との連携や地域参画を体験させる授業が充実してきている中、各大学が地元の歴史や課題に関わる問題を取り扱うなどして独自性を出すことも考えられるのではとの意見をいただいた。

しかしながら、報告者3氏の報告が大変充実していたこともあり、協議に多くの時間を割くことができず、協議内容の十分な深まりを確保することができなかった。

スライド①

■研究協議題について
高校の地歴公民の授業においては…

新科目「地理総合」、「歴史総合」
「地理探究」、「世界史探究」、「日本史探究」、
「公共」、「倫理」、「政治経済」、
「単元を貫く『問い』を設定し、見通しを持って学習に取り組む」
「学んだことを『概念』として理解し、現代の課題解決に活用する」
「科目を通しての学びを通じて、自身が課題を設定し『探究』に取り組む」
…など、思考力・判断力・表現力の育成を重視する「学び方」を意識。

スライド②

■研究協議題について
高校で進むと期待される「資質・能力」の育成、向上をはかる「授業改善」
大学入学後の学びを支える、基礎学力・基礎知識
双方に通じる、学習意欲の向上

大学入学共通テストには
「知識・技能」
「思考力・判断力・表現力」
の2つの観点をもとめる工夫

スライド③

■研究協議題について

Q. 地歴公民科目において、学力の三要素の向上を図る授業改善が進むとすれば、どのような入試問題が出題されるのが望ましいか？

(1)青い付箋に黒ペンでとんとん書いてください。
(2)自己紹介と合わせて、書いた内容を説明し横道紙に貼ってください。
(3)書いた内容を、グループに分けるなどして分類してください。
(4)これらを踏まえて、望ましい地歴公民科目の入試問題について意見(希望、夢?)をまとめる。

到達点と今後の課題

今回、「大学入学共通テスト」の問題分析をベースとした報告だけでなく、実際に大学入試問題を作成しておられるとともに、大学入学後の学生の現状を理解しておられる大学教授の方からのご意見をいただいたのは、高大接続改革に伴い入試問題が「思考力・判断力・表現力」を問う形式に変化しつつある状況や、授業改善の必要性についての共通理解が地歴・公民科教員に少しずつ浸透していく中、今後、地歴・公民科目はより一層目に見える形で大学入試が変わっていくのか、担当教科・科目の知識伝達に終始せず、資質・能力の育成を重視する教育活動にこれまで以上に積極的に取り組んでいくということでのよいのかということについて方向性を確認したいと考えていた。

そういった面からすると、実際に学生を見ておられる大学教授の方より、大学入学後の「基礎的な知識・理解」の必要性やその担保を求める入試問題を作成せざるを得ないという現実が示され、「思考力・判断力・表現力」の伸長のみを追求するのではない、バランスを考慮した授業が重

要であることが確認されたことは、参加者皆、漠然と思っていたことに対し具体的な指摘があったという点で一定の評価ができるのではないかと考える。また、地歴・公民科目の特性を活かし、各大学が独自の問題を作成する際、地域の歴史や課題などをテーマにした探究型の学習をベースとしたものを取り入れることで、より一層、「思考力・判断力・表現力」を教科の学びを通じて問うことができるのでは、という指摘は大変興味深いものであったと考える。

今後についても、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」のバランスを迫及した授業改善や、そういった学びを経てきた生徒の力を適切に測る大学入試改革の困難さは、これまでも継続して述べられているところであり、今後、より一層、この課題に地歴・公民教科・科目の教育に携わる者として、向き合っていかなければならないだろう。



スライド1

2019.12.7. Sat.
 高大連携教育フォーラム
 第2分科会「地歴・公民」

Kyoto Municipal
 Horikawa
 High School

**今後の社会において求められる資質・能力の育成と高大接続
 ～これからの見据えた授業実践例～**

京都市立堀川高等学校
 教諭 菅谷 尚平

スライド2

2 本発表の流れ

- 1 新学習指導要領及び大学入学共通テストをもとに、今後必要とされている資質・能力の整理
- 2 高校段階で地歴公民科の授業を通して身につけさせたい資質・能力
- 3 上記の資質・能力を身につけるための実践例。

スライド3

3 新学習指導要領における公民科の目標①

社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、(中略)公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

※社会的な見方・考え方の一例(公民科)
 幸福・正義・構成・個人の尊重・民主主義・責任と義務・・・

(出典 高等学校学習指導要領(H30年度公示) P92)

スライド4

4 新学習指導要領における公民科の目標②

・3つの柱から見る公民科における資質・能力

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> 概念や理論及び現代の諸課題についての理解 諸資料から様々な情報をまとめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の諸課題について、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力 構想したことを議論する力 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度 人間としての在り方生き方についての自覚

(出典 高等学校学習指導要領(H30年度公示) P92)

スライド5

5 新学習指導要領における公民科の目標③

18歳選挙権等の今後の社会を見据えたポイント

●主権者教育、消費者教育、安全教育などの充実

政治参加と公正な世論の形成、政党政治や選挙、主権者としての政治参加の在り方についての考察(公民)、主体的なホームルーム活動、生徒会活動(特別活動)

➡ **社会に参画する当事者意識の醸成**

(出典 文部科学省 2019「高等学校学習指導要領の改訂のポイント」)

スライド6

6 大学入学共通テスト試行問題の検討①

現代社会の課題や人間としての在り方生き方等について多面的・多角的に考察する過程を重視する。文章や資料を的確に読み解きながら基礎的・基本的な概念や理論、考え方を活用して考察する力を求める。

問題の作成に当たっては、図や表など、多様な資料を用いて、データに基づいて考察し判断する問題などを含めて検討する。

(出典 大学入試センター 2019「令和3年度大学入学選抜に係る大学入学共通テスト問題作成」)

スライド7

7 大学入学共通テスト試行問題の検討②

公民科目において作問のねらいとされている「思考力・判断力・表現力」とは・・・

【政治・経済】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」についてのイメージ（素案）

<p>【思考力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 問題の背景や状況を把握し、問題の核心を捉えること。 ② 問題の核心を捉えた上で、問題の背景や状況を踏まえ、問題の核心を捉えること。 ③ 問題の核心を捉えた上で、問題の背景や状況を踏まえ、問題の核心を捉えること。 	<p>【判断力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 問題の背景や状況を把握し、問題の核心を捉えること。 ② 問題の核心を捉えた上で、問題の背景や状況を踏まえ、問題の核心を捉えること。 ③ 問題の核心を捉えた上で、問題の背景や状況を踏まえ、問題の核心を捉えること。
--	--

（出典 大学入試センター 2018 「作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」についてのイメージ（素案）」）

スライド8

8 大学入学共通テスト試行問題の検討③

「概念や理論の活用」 実際の出題例

問3 制度や政策には、様々な考え方が背景にある。【考え方式】と【考え方式B】は、どのような制度や政策と関連しているか。それぞれについて、最も適切なものを、次の①～④のうちから一つずつ選べ。

【考え方式A】→ 3
【考え方式B】→ 4

A: 功利主義
B: 正義論

正答率
A 35.1%
B 59.6%

- 投票などで明らかになった多数者の意見に基づいて、政策の基本方針を決めるような制度
- 業績によって所得を再分配するなどして、社会保障を充実させるような政策
- 外国との間で、互いに旅行や学習、就労の機会が得られるようにするなど、異文化間の相互理解を促進するような制度
- 様々な規制を緩和するなどして、経済活動の自由を最大限にすることを目的とするような政策

（出典 大学入試センター 2017 「平成29年度 試行調査問題 現代社会」）

スライド9

9 大学入学共通テスト試行問題の検討④

「概念や理論の活用」+「諸課題の把握」 実際の出題例

以下の観点から伊勢舟をよみまわると、表の1～4のうち2つ以上の観点から解答中の解答を再読し、そのほか、A～Dのうち2つ以上の観点から解答をよめられるか、その観点から最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

① 伊勢舟の構造や仕組み、バスの構造などの社会生活の仕組み、技術の発展や社会生活の仕組み、新しい技術やサービスを説明する。また、その仕組みに対する賛否や批判の理由や期待を説明する。

② 伊勢舟の構造や仕組み、バスの構造などの社会生活の仕組み、技術の発展や社会生活の仕組み、新しい技術やサービスを説明する。また、その仕組みに対する賛否や批判の理由や期待を説明する。また、その結果に対する批判や期待を説明する。また、その結果に対する批判や期待を説明する。

1	2
① A	① B
② B	② C
③ C	③ D
④ D	④ A
⑤ A	⑤ C
⑥ B	⑥ D
⑦ C	⑦ A

（出典 大学入試センター 2018 「平成30年度 試行調査問題 現代社会」）

スライド10

10 今後必要とされている資質・能力の整理

新学習指導要領・共通テストから今後求められる資質・能力

① 概念・理論の習得・活用	② 諸資料を選択し活用する力
③ 現代の諸課題の把握	④ 多角的・多面的な考察

①～④の獲得を通して → 主権者意識の醸成

スライド11

11 高校段階で身につけさせたい資質・能力

① 概念・理論の習得・活用	② 諸資料を選択し活用する力
③ 現代の諸課題の把握	④ 多角的・多面的な考察

高校段階では・・・

- ①: 概念・理論の理解及び具体的状況での活用
- ②: 諸資料の収集・批判的吟味
- ③: 現代の諸課題の把握
- ④: 2つ以上の視点・側面からの考察

①～④の獲得を通して → 社会における諸課題への意識醸成

スライド12

12 資質・能力を身につけるための実践例①

実践事例の紹介
「校則改善をテーマとした、規則功利主義の活用」

身につけさせたい力

- ①: 概念・理論の具体的状況での活用(功利主義)
- ③: 校内の諸課題の把握

→ 学校における諸課題への意識醸成

スライド1

**主体的・対話的で
深い学びを通じ
育成する資質・能力**
～大学での学びに繋がる力とは～

京都市立紫野高等学校
教諭 木塚功一

スライド2

報告内容について

- ▶ 大学入学共通テストの特徴
- ▶ 地歴公民科の授業を通して「つきたい力」（来るべき「歴史総合」も視野に入れて）
- ▶ 「つきたい力」を培う実践例
- ▶ 大学にすすむうえで必要な力とは

スライド3

大学入学共通テスト

- ▶ 高等学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のメッセージ性も考慮し、授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等を基に考察する場面など、学習の過程を意識した問題の場面設定を重視する。…歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

（大学入試センターHP
「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針」より抜粋）

スライド4

大学入学共通テスト

- ▶ 2017年・2018年の2回にわたる試行実施
- ▶ 今回は主に2018年度試行実施の内容を分析
(資料は大学入試センターHPより抜粋)

《受検者数等》	平均得点率	54.57% (55.19%)
全受検者数 4,200人	平均点	54.57点 (55.19点)
高校3年生 3,538人 (84.2%)	標準偏差	13.40
高校2年生 662人 (15.8%)	最高点	100点
	最低点	8点

※ 平均得点率及び平均点の括弧内は高校3年生のみを対象。

- ▶ 大問6つで構成
うち1・3・5・6が生徒による研究活動をモデルとする
(「学習の過程を意識した問題」の場面設定)

スライド5

示された資料から情報を抽出

第1問問4 (解答番号4)
多肢選択
選択肢数4
正答率 95.76%

**資料がわかりやすい
→比較的容易に正答を導き出せる**

スライド6

複数の提示資料と、自身の知識を関連付けて考察する問題

第5問B問5 (解答番号27-28)
多肢選択
選択肢数4
正答率 39.38%

**直接的だけでなく、多面的に資料を関連付けられる力が試される
・識別力のある問題**

スライド 13

大学にすすむうえで必要な力①

▶ 「歴史学」の研究ステップ

①問題意識 → ②先行研究 → ③仮説 →
主体的な姿勢 **知識・理解** **思考・判断**

④史料収集 → ⑤歴史像の構築 → ⑥検証
知識・技能 **判断・表現** **対話的議論**

(大学の歴史教育を考える会『わかる・身につく歴史学の学び方』)

問題発見→仮説→分析・検証→考察のサイクル定着

▶ 学問・研究における手法
 →学問分野の如何を問わず、基本姿勢に違いはないはず
 ならば入り口にあたる「主体的な姿勢」が必要では？

スライド 14

大学にすすむうえで必要な力②

▶ 高等学校の授業段階でできること

①“入口”を用意する【主体性の抽出】
 ・まずは「テレビの電源をON」してもらう(外的インセンティブ)
 ・「どんな番組がおもしろい(観たくなる)か？」
 →導入(「問い」)+構成(構造)+結末(習得)

②“脳内アクティブ”【主体性の維持】 **「学びに向かう力」**
 ・「あの番組…また来週も観ようかな」(内的インセンティブ)
 ・授業内容を明確に→随所での「問い」の設定
 「歴史的な見方・考え方」を意識させる
 ・授業以外での“対話”を→いろんな話ができる人間関係

スライド 15

最後に

▶ 高等学校の授業を通して身につけてほしいこと **method**

①「気づく」「考える・調べる」「答えを出す」のサイクル
 (問題意識→仮説→分析・検証→考察→問題意識→…)

②主体的に事象にせまろうとする態度 **attitude**
 (「考えて、わかる」ことが楽しいことだと体験する)

高校 → 大学入試 → 大学 → 社会

スライド 16

参考文献

- ▶ 永松靖典編著『歴史的思考力を育てる—歴史学習のアクティブ・ラーニング』山川出版社, 2017年
- ▶ 加藤公明『考える日本史授業 4: 歴史を知り、歴史に学ぶ!今求められる《討論する歴史授業》』地歴社, 2015年
- ▶ 本郷和人『戦いの日本史 武士の時代を読み直す』kadokawa, 2012年
- ▶ 塚原哲也『東大の日本史25カ年 [難関校過去問シリーズ]』教学社, 2008年
- ▶ 大学の歴史教育を考える会『わかる・身につく歴史学の学び方 (大学生の学びをつくる)』大月書店, 2016年
- ▶ 片山杜秀『歴史という教養』河出書房新社, 2019年
- ▶ 梅津正美「地理歴史科新科目「歴史総合」「日本史探究」の特徴と実践課題～資質・能力ベースの歴史授業構成～」『日本史かわら版』第5号pp12-14, 帝国書院, 2018年
- ▶ 土屋武志「大学入学共通テスト一試行調査からみる方向性と求められる力」『日本史かわら版』第7号pp7-9, 帝国書院, 2019年

スライド1

大学が高等学校教育に
求める歴史の力

大谷大学文学部歴史学科
平野寿則

Be Real 寄りそう知性

大谷大学

スライド2

大谷大学

□大学入学共通テスト

令和3年度大学入学者選抜から、「大学入試センター試験」に代わり、「大学入学共通テスト」が実施。

↓

「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等」
「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針」が通知。

Be Real 寄りそう知性

スライド3

大谷大学

□問題作成の基本的な考え方

大学教育の入口段階までに、どのような力を身につけていることを求めるのか。

↓

大学教育の基礎となる知識・技能や思考力、判断力、表現力を問う問題作成。

高等学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のメッセージ性も考慮し、授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等を基に考察する場面など、学習の過程を意識した問題の場面設定を重視。

Be Real 寄りそう知性

スライド4

大谷大学

□問題作成のねらい、範囲・内容

高等学校学習指導要領解説及び高等学校で使用されている教科書を基礎とし、特定の事項や分野に偏りが生じないように留意する。

高等学校における通常の授業を通じて身に付けた知識の理解や思考力等をあらたな場面で発揮できるかを問うため、教科書等で扱われていない資料等もあつかう場合がある。

Be Real 寄りそう知性

スライド5

大谷大学

□出題教科・科目の問題作成の方針

歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連性等について、総合的に考察する力を求める。問題の作成にあたっては、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

（令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等及び大学入学共通テスト問題作成方針について）

Be Real 寄りそう知性

スライド6

大谷大学

□問題作成の方針について

多面的・多角的に考察する過程を重視
総合的に考察する力を求める

↓

- 初見の資料…から得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題
- 仮説を立て…根拠を示したりする問題
- 歴史の展開を考察…特定のテーマについて考察したりする問題

Be Real 寄りそう知性

スライド 19

◎大谷大学

○史料を読む

「歴史」を学ぶには、教科書だけでなく、史料（史料集）や用語集（用語集）を積極的に活用することが重要である。史料は、歴史の現場から生じたものであり、教科書とは異なる視点や情報を含んでいる。用語集は、歴史の現場で使われる言葉や表現を整理し、理解を助ける役割を果たしている。したがって、史料や用語集を積極的に活用し、歴史の現場を体験し、理解を深めることが、歴史を学ぶ上で不可欠である。

Be Real 寄りそう知性

スライド 20

◎大谷大学

□まとめにかえて

○最初から問いがあるわけではない
 出会い(漠然)→言語化→課題として設定→問い→
 先行研究・仮説→史資料収集→整理→分析→考察→
 表現(構成:答え)

○この過程で大切なのは「問い」以前の構え
 漠然とした事柄を「ああでもない」「こうでもない」
 と考える力(言語化)＝基本的な知識・基礎的な学力

Be Real 寄りそう知性

スライド 21

◎大谷大学

○日本史の教科書の内容量はかなりのもの
 政治・経済・文化の各分野が順次に縦割りになって
 記述されている→各分野の流れやつなぎ目を確認
 しながら読む→出来事や人物、文化を時代の相互
 関係の中に位置づけてノートに整理する。
 ＊掲載される地図・表・史料にも注意
 ＊「史料集」と「用語集」を活用する

○何のために大学へ…?→目的意識の大切さ

Be Real 寄りそう知性

スライド 22

◎大谷大学

Be Real
 寄りそう知性